

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

| 目次 | Pages |
|----------------------|-------|
| ➤ JRRN 事務局からのお知らせ | 1 |
| ➤ JRRN 会員寄稿記事 | 7 |
| ➤ 会議・イベント案内 & 冊子等の紹介 | 10 |

JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

JRRN 国際活動 – 香港政府視察団と国内行政機関との洪水・高潮対策に関わる技術交流支援報告

2020年1月14日(火) - 18日(土)の5日間、香港政府視察団が来日し、首都圏の洪水・高潮対策事業を担う行政機関との技術交流が行われました。JRRNでは、本交流行事を支援させて頂きましたのでその概要をご報告致します。

【1】視察団受入の経緯と視察行程

香港政府視察団へのJRRNによる支援は、2009年2月(都市部の水辺再生事業調査)から10年にわたり実施し、今回で6回目を迎えます。

本年度は日本国内における台風被害、香港の内政の混乱等により視察延期があったことから、最終的に12月に香港政府より1月視察希望の連絡を受け、視察の目的や技術的な関心事項、また旅程案等を確認し、それらを踏まえた国内受入機関との調整を経て、今回の現場視察及び技術交流が行われました。

■過去の受入支援報告：

2018年9月

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/569>

2017年12月

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/529>

2016年5月

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/420>

2013年2月

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/213>

2009年2月

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/public/49>

表 – 香港政府視察団の行程

| 月日 | | 視察先 (技術交流受入機関) |
|-------------|----------|--|
| 1/14 (火) | 午前 午後 | 首都圏外郭放水路(国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所 首都圏外郭放水路管理支所) 見学会：立坑体験コース |
| 1/15 (水) | 午前 午後 | 午前：親水河川整備、新川排水機場(東京都江戸川区土木部計画調整課) 妙正寺川第1・第2調節池(JRRN) 神田川・環状七号線地下調節池(東京都建設局河川部計画課、東京都第三建設事務所) |
| 1/16 (木) | 午前 午後 | 渡良瀬遊水地(JRRN) 目黒川：五反田水辺ふれあい広場 神田川：柳橋・川てらす、佐久間橋・和泉橋(JRRN) |
| 1/17 (金) | 午前 午後 | かわてらす：清洲橋下流、箱崎地区高規格堤防、箱崎防災船着場(東京都建設局河川部計画課) 高潮対策センター、辰巳排水機場(東京都港湾局東京港建設事務所 高潮対策センター) |
| 1/18 (土) | 午前 | 新左近川親水公園、新長島川親水公園(JRRN) |

【2】視察団の構成と視察目的

本視察団は、香港政府職員（香港特別行政区政府・渠務署排水局）4名で構成されており、母体となる渠務署排水局（Drainage Services Department）は、香港の河川及び都市排水路の洪水対策、水質改善、下水道等の業務を分掌する組織です。香港北部に位置するユエン・ロング地区では、今後の気候変動（IPCC第5次評価報告書での予測結果）に対応した大規模な洪水防御事業を計画しており、この事業では、既にある放水路の機能の拡大とともに、大規模な高潮水門や排水機場の整備を検討中です。そこで、視察希望先とともに、以下のようなテーマについて日本の先進事例を学びたいとの要望を頂き、日本の先進事例視察と現場を管理する行政機関との意見交換を行いました。

＜視察団より要望のあった主な技術交流テーマ＞

- 流域全体の治水施設の統合的運用のスキーム
- 高潮水門や排水機場の施設計画や建設時の留意点、維持・管理上の経験や教訓
- 治水を主目的としながらも自然環境や景観に配慮した河川再生

■ 渠務署排水局ウェブサイト：

<http://www.dsd.gov.hk/EN/Home/>

■ 香港における現在検討中の気候変動適応策について：

http://jp.a-rr.net/jp/activity/newsletter/files/2016/08/Newsletter_vol110_201608.pdf

【3】各技術交流の概要報告

(1) 首都圏外郭放水路における技術交流(1/14・午前)

1月14日（火）午前は、国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所が管理する首都圏外郭放水路を視察しました。

はじめに、視察団より香港の水環境、雨水排水事業の近年の取組や課題など視察背景について説明頂きました。日本のご担当者からは、施設の概要に加え、事前に視察団からの寄せられていた気候変動に伴う高潮対策等への特別な設計仕様や江戸川流域全体の治水施設の統合的運用のスキーム、施設の計画・設計・運用管理における環境や生態学的な配慮に関する質問等に対し、丁寧なご回答を頂きました。台風19号で多大な効果を発揮したこともご説明頂きました。

午後からは、龍Q館にてパルテノン神殿とも称される地下22mの調圧水槽と第1立坑の見学会に参加しました。首都圏外郭放水路の仕組みをパネルや模型で説明頂き、さらに見学を通して、午前中の意見交換内容への理解を深めるとともに、本施設の役割の大きさを体感しました。



施設概要や運用に関する意見交換



調圧水槽内での記念撮影

(2) 新川と新川排水機場における技術交流(1/15・午前)

1月15日（水）午前は、江戸川と旧中川を結ぶ新川を訪問し、東京都江戸川区のご担当者と技術交流を行いました。

新川排水機場は改修中でしたが、外側から施設概要をご説明頂き、新川西水門広場においては景観設計のコンセプトと共に江戸情緒あふれる石垣や通路、桜の樹種をはじめ植栽についてもご説明頂きました。

また、広場内の高さ15.5mの火の見櫓の頂上から新川を眺めながら、開削の歴史的経緯や整備概要、河川の地下に作られた駐車場として日本随一の新川地下駐車場のご紹介も頂きました。ご担当者からは「水の流れが地域どうし、人と人をつなぎ地域コミュニティをつくってきたのだと感じている。一度埋めてしまうと、将来もとの川に戻したいと思っても難しい。水のある風景を大事にしていきたい」とのお話をうかがいました。新川沿川の千本桜は、地域住民や地元企業などの有志からの寄付で植樹されたとのこと、まさに先のお話を体現しています。それを聞いた視察団からは、「そうした草の根レベルでの活動が現在の香港ではなかなか生成されにくい」「そういった動きをどのように促していけるか、我々も考えていきたい」との言葉がありました。



新川排水機場の役割紹介

エレベーターで一気になり地下調節池へ。そこには内径 12.5m、延長 4.5km 続くというトンネルと広大な地下空間が広がっており、視察団からも感嘆の声があげられました。

台風 19 号時には、計画貯留量の約 9 割程度貯留し、浸水被害の軽減に大きな効果を発揮したとのご説明を頂きました。



地下調節池のメカニズムの説明



火の見櫓から見下ろした新川



地下調節池内での点検手法の説明

(3) 妙正寺川第1・第2調節池 (1/15・午後)

続いて、中野区に移動し、妙正寺川第1調節池及び第2調節池などを視察し、都市部における洪水対策と居住空間の創出について視察団との議論を深めました。



(4) 神田川・環状七号線地下調節池 (1/15・午後)

さらに、15 日最後の訪問先として、東京都建設局東京都第三建設事務所が管理する神田川・環状七号線地下調節池を視察しました。

施設全体の概要と環七地下調節池模型を用いた実演で調節池の役割等の説明を受けた後、中央監視室を見学させて頂きました。その後、いよいよ地下約 50mを

(5) 渡良瀬遊水地(1/16・午前)

1月16日(木)午前、渡良瀬川に思川と巴波川の2つの川が合流する渡良瀬遊水地を視察しました。渡良瀬遊水地ガイドクラブの方のご協力を得て、JRRN 事務局員が渡良瀬遊水地形成の経緯や谷中村役場跡地、雷電神社跡地などの遺跡をご案内しました。視察団からは渡良瀬遊水地や渡良瀬川に生息する生物の種類や遊水地の水質保全対策(干し上げ等)について質問が寄せられました。



渡良瀬遊水地の概要説明

(6) 目黒川・神田川(1/16・午後)

続いて、目黒川の五反田ふれあい水辺広場の社会実験の船着き場、神田川河口部の柳橋・隅田川テラス、佐久間橋・和泉橋の防災船着き場を視察しました。首都の繁華街を流れる河川における水質環境や景観に配慮した川づくりについて、視察団との議論を深めました。



五反田ふれあい水辺広場

(7) かわてらす・箱崎地区高規格堤防、箱崎防災船着場(1/17・午前)

1月17日(金)午前、隅田川河口の清洲橋左岸下流部周辺のかわてらすを始点に、対岸の箱崎地区を視察しました。東京都建設局河川部のご担当者から、高潮・洪水対策の取組や河川管理に関する法制度、かわてらすで宿泊・飲食業に参入した民間事業者の取組、隅田川の近隣店舗の方々による「隅田川マルシェ」の開催についてもご紹介頂きました。

また、国の規制緩和により一定の条件下で民間事業者にも水辺の利用が拡大されたことを受け、東京都では社会実験を重ねてきたこと、出店事業者自ら近隣住民と合意形成を図り、行政は許認可や支援業務が主軸である旨ご説明頂きました。

視察団からは、水辺の利用をめぐる民間事業者と折り合いがつかなかった香港での事例が紹介され、東京の都心部で民間事業者が自ら地域住民と合意形成を図り、利活用を進めている現状に大変驚かれていました。

続いて、箱崎地区に移動し、企業のビルの建て替えに合わせて企業と行政が協力して高規格堤防を整備した事例と整備効果等についてご説明頂きました。



かわてらすの概要及び利活用の紹介



箱崎地区高規格堤防の概要紹介

(8) 高潮対策センター、辰巳排水機場(1/17・午後)

1月17日(金)午後は、東京都港湾局東京港建設事務所が管理する高潮対策センターを視察しました。

映像を用いた東京港の高潮・津波対策の概要説明の後、水門・陸閘の役割や操作方法、モニタリングの方法について説明を頂きました。視察団からは台風や高潮時などの緊急時の操作方法に関して、質問が多く寄せられました。

続いて、辰巳排水機場へ移動し、前回の東京オリンピック開催を控えた1963年から大事に手を加えながら運用されてきた4台の排水機を囲み、操作方法の実演及び維持管理に関する意見交換が行われました。

その後、現在建設中の新しい排水機場の外観を見学させて頂き、再整備の経緯や新たな5台の排水機の仕様、今後の運用方法をご説明頂きました。

■東京都港湾局公式動画（英語）：

“Protecting Tokyo from Storm Surges and Tsunamis —Port of Tokyo Coastal Protection Facilities —”（高潮・津波から東京を守るために ～東京港の海岸保全施設～）

<https://www.youtube.com/watch?v=MiwSQah546c>



高潮対策センターでの高潮・津波対策の概要説明



辰巳排水機場内での排水機操作の説明



新しい排水機場の施設概要の紹介

（9）新左近川親水公園、新長島川親水公園（1/18・午前）

滞在最終日となる1月18日（土）午前には、江戸川区内の親水河川公園などを視察し、環境に配慮した川づくりについて視察団との議論を深めました。



新長島川親水公園のじゃぶじゃぶ池

【4】おわりに

JRRN ではこれまでも香港視察団の支援に携わって参りましたが、毎回のことながら、意見交換の場での視察団の質問の多さや視察に際しての熱心な姿勢には学ぶところが多いです。

また、それに応えてくださる日本の受入機関担当者の方々の知識や経験の豊富さには尊敬の念を禁じえず、それを丁寧かつわかりやすくご教示して下さる姿から、技術者としての真摯な姿勢や日本の川づくりの奥深さを学ぶことができました。加えて「香港ではどうですか？」と、香港での取組への問いかけも多数頂戴し、より充実した技術交流の場となりました。

全ての視察を終えた香港政府視察の団長からは、「今回視察させて頂いた施設での取組は、今後の香港における防災調節池や河川再生のプロジェクトの遂行に非常に大きな示唆を与えてくれます。ご案内頂いた担当者の皆さんの丁寧なご説明とホスピタリティに感謝します。香港にお越しの際は喜んでご案内させていただきます」との感謝の言葉を頂戴しました。

最後に、急なお願いにも関わらず、本視察の受け入れに際し、準備段階から当日の対応まで全面的にご協力頂きました国土交通省関東地方整備局江戸川河川事務所及び首都圏外郭放水路管理支所、東京都江戸川区土木部計画調整課、東京都建設局江東治水事務所、東京都建設局河川部計画課及び東京都第三建設事務所、渡良瀬遊水地ガイドクラブ、東京都港湾局東京港建設事務所高潮対策センターの関係各位に厚く御礼申し上げます。

（JRRN 事務局・佐治史）

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

「桜のある水辺風景 2020」写真募集のお知らせ【予告】

JRRN では、水辺の美しさや人々との関わりについて考えるきっかけづくりを目指して、国内の「桜のある水辺風景」の写真とメッセージを例年募集しております。昨年は 37 名の方々より 62 作品 71 枚をご応募いただきました。11 年目となる今年も作品募集を予定しています。

応募方法はメール、Web 応募を予定しておりますが、詳しくは次回ニューズレター、Facebook 他でお知らせいたします。

応募開始時期は 3 月上旬です。皆様の応募を心よりお待ちしております。

《Facebook》

<https://www.facebook.com/sakuramizube/>

《Twitter》

<https://twitter.com/sakuranomizube>

《写真集「桜のある水辺風景」》

過去の応募写真集がご覧いただけます。

<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/category/cherryphotos>

◆スケジュール (予定)

3月上旬 募集開始 (HP 掲載)

5月末日 募集〆切

7月上旬 写真集発行 (HP 掲載)



「桜のある水辺風景 2019」表紙
(例年、作品は写真集に掲載し Web 公開しています)



昨年の応募写真から

(JRRN 事務局・澤田みつ子)

2月



引用 : <http://koka60.jugem.jp/?eid=2132>



あの日のあの川 リレー日記 ～第48話～



あの日のあの川
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

第48話主人公 藤田直樹

(筑波大学 社会・国際学群 国際総合学類 白川(直)研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：兵庫県武庫川)

「自然と触れ合える場所」

いつのこと？：小学生のころから高校生まで

どこの川？：武庫川



兵庫県の南東、西宮市と尼崎市の境に武庫川が流れている。武庫川は普段は水位もそれほど高くなく、穏やかな川であるが、大雨などで増水すると荒々しい姿となるときもある。西宮市に流れている部分は武庫川の中でも下流域で川幅が比較的広く河川敷でサッカー、野球、ジョギング、サイクリングなどが盛んにおこなわれている。休日に河川敷に出るとサッカーや野球をしているクラブチームの少年をよく見かける。

図1 武庫川の河川敷 引用 : <https://yuruyurunoririn.net/2016/04/25/post-194/>

私が小学校から高校までで武庫川で過ごした思い出を思い出しながら書いていこうと思う。

私は生まれてから高校生までずっと西宮に住んでいたのが武庫川というのはそれなりになじみがあり、幼いときは広大な川というイメージが強かった。小学生の時は父親や弟と一緒に自転車で武庫川まで行き、小さいエビ（ミナヌマエビのような）などを捕まえて遊んだことを今でも覚えている。自分では虫網でエビをなかなか捕まえられなかったが、父親が何匹も容易に捕まえていたので妙に尊敬のまなざしで見ていたような気がする。ただ、小学校から中学2年生までの間は校区外で家から少し距離があったため一人で訪れることはほとんどなかったと思う。



図2 ミナヌマエビ

引用：<https://loki-life.com/shrimp-breeding/>

中学3年生の時に市内のなかで新居へと引越した。新しい家から武庫川までは自転車で数分で行ける距離だったので、中学3年からは武庫川に行く機会が一気に増えた。中学3年生の時はよく勉強の気晴らしで自転車に乗ってサイクリングをしたり、川辺で水切りをしたりしていた。それなりの都会で生活している中で自然と触れ合う機会はあまりなかったが、武庫川に行くことで身近に自然を感じることができて楽しかった。高校に上がってからは自転車で移動する範囲も広がり、家から上流や河口までサイクリングロードが続いているとかまでサイクリングしたりした。また高校生のときは武庫川で学校の耐寒マラソン大会があり河川敷を10キロも走らされたこともある。

大学に入って、帰省した時に武庫川を訪れてみた。すると水かさが増したのか、川の流れが変わったのか、以前よく水切りをしていた場所までに川が流れ水切りができなくなっていた。自分がよく遊んだなじみの場所が水に埋もれて渡れなくなっていた（中州になっていた）ことに少しさびしさを覚えたが、時が立ったことと川の姿も時々で変わっていくことを感じた瞬間だった。川の姿その時々で様相を変えていくが、武庫川がこれからも人々の憩いの場であり続ければよいなと思った。今度実家に帰ることがあれば晴れた日にゆっくりと武庫川をサイクリングしたいと思う。



図3 高校生の時に武庫川で撮った画像 撮影：2016年1月

(次は官尋さんにバトンを託します)

水辺からのメッセージ No.129

岡村幸二 (JRRN 会員)

水都大阪・大賑わい： 繁華街ミナミの水辺風景に 大阪人の都心聖地・戎橋



撮影：2019年10月（大阪市中央区・道頓堀川）

◆道頓堀川のシンボル・戎橋

戎橋の架かる道頓堀川には2004年(平成16年)から約10年かけて、両岸に“とんぼりリバーウォーク”が整備され、元々の道頓堀繁華街に加えて川に面したにぎわい空間が生まれました。

◆戎橋でほんまの“大阪”を知る

水都大阪自慢の「水の回廊」は、木津川から道頓堀川を抜けて、さらに東横堀川を北へ向かい土佐堀川に至り、そこから中之島に沿いながら木津川の合流地点に至ります。いまではクルーズ船の船着き場も数か所ありますが、やや過剰ぎみに外国人観光客が押し寄せています。

■ 連載『水辺からのメッセージ』のバックナンバーはJRRNホームページ内の以下のページよりご覧いただけます！

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/category/mizube>

会議・イベント案内 (2020年2月以降) *Event Information*

(国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

■令和元年度 川の再生交流会

○日時：2020年2月1日(土) 10:00～16:00

○主催：埼玉県

○場所：さいたま市民会館うらわ(埼玉県さいたま市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3087.html>

■“いい川”づくり研修会・近畿

○日時：2020年2月5日(水) 10:00～16:00

○主催：NPO 法人全国水環境交流会、NPO 法人近畿水の塾

○場所：尼崎市総合文化センター 7階(兵庫県尼崎市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3084.html>

■令和元年度 河川教育研究交流会

○日時：2020年2月8日(土) 12:30～17:40

○主催：公益財団法人 河川財団

○場所：東京大学 山上会館(東京都文京区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3079.html>

■ビワマスフォーラム 2019-20 in 野洲 ～生まれ！滋賀の小さな自然再生～

○日時：2020年2月8日(土) 13:30～16:00

○主催：家棟川・童子川・中ノ池川にビワマスを戻すプロジェクト／野洲市／滋賀県

○場所：コミュニティセンターひょうず 大ホール(滋賀県野洲市)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3094.html>

■令和元年度 川づくり団体全国事例発表会

○日時：2020年2月9日(日) 13:00～17:00

○主催：公益財団法人 河川財団

○場所：東京大学 山上会館(東京都文京区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3082.html>

■水循環シンポジウム 2020～多様な連携・広報・人づくりのノウハウを学ぼう～

○日時：2020年2月17日(月) 13:30～16:40

○主催：内閣官房水循環政策本部事務局

○場所：TKP 東京駅日本橋カンファレンスセンター(東京都中央区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3096.html>

■MIZBERING FORUM 2020220 ～川ろうぜ！突き抜けようぜ！～

○日時：2020年2月20日(木) 14:00～18:00

○主催：ミズベリング・プロジェクト事務局/国土交通省

○場所：竹芝ニューピアホール(東京都港区)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3101.html>

■第204回 河川文化を語る会『未来のために知っておきたい、海とプラスチックの話』

○日時：2020年3月29日(日) 14:30～16:30

○主催：公益社団法人 日本河川協会

○場所：ウインクあいち(愛知県名古屋)

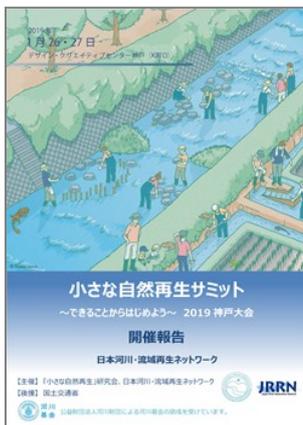
<http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3099.html>冊子等の紹介 *Publications*

■小さな自然再生サミット～できることから始めよう～ 2019 神戸大会 開催報告 (2019.2 発行)

・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

・発行年月：2019年2月

・ページ数：43ページ



2019年1月26日(土)～27日(日)に神戸にて開催しました『小さな自然再生サミット 2019 神戸大会』の開催成果報告書です。

この開催報告は、サミット参加者とともに学び議論した内容の一部を、当日の写真とともに皆様にご紹介するものです。

■「できることから始めよう 水辺の小さな自然再生事例集」(2015.3 発行)

・監修：玉井信行 東京大学名誉教授 / JRRN 顧問

・編著：「小さな自然再生」事例集編集委員会

・発行：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

・出版年月：2015年3月



本事例集は、小さな自然再生の実践を通じてその技術普及に尽力されている専門家の方々、専門知識の社会への橋渡しの専門家、そして有志の若手研究者や実務者で構成される「小さな自然再生事例集編集委員会」が、小さな自然再生の全国への普及を目的として制作したものです。

☒上記冊子の入手方法 ※PDF版はこちらから：<http://jp.a-rr.net/jp/activity/publication/>

JRRN 会員募集中 JRRN membership

■ JRRN の登録資格 (団体・個人)

JRRN への登録は、団体・個人を問わず無料です。市民団体、行政機関、民間企業、研究者、個人等、所属団体や機関を問わず、河川再生に携わる皆様のご参加を歓迎いたします。

■ 会員の特典

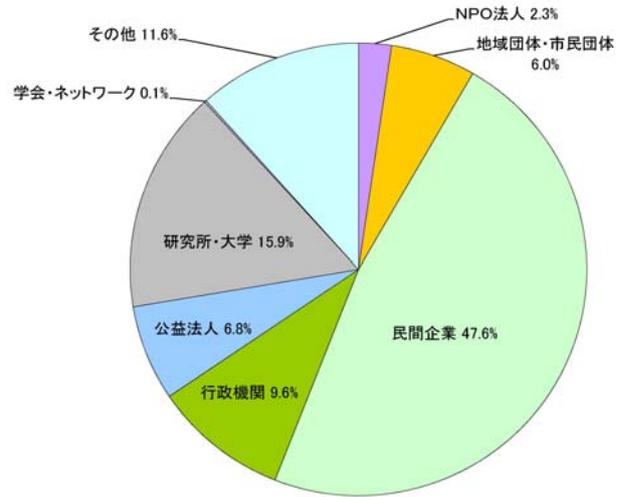
会員登録をされた方々へ様々な「会員特典」をご用意しています。

- (1) 国内外の河川再生に関するニュースを集約した「JRRN ニュースメール」が週 1 回メール配信されます。
- (2) 国内外のセミナー、ワークショップ等の開催情報が入手できます。また JRRN 主催行事に優先的に参加することが出来ます。
- (3) 必要に応じた国内外の河川再生事例等の情報収集の支援を受けられます。
- (4) JRRN を通じて、河川再生に関する技術情報やイベント開催案内等を国内外に発信できます。
- (5) 韓国、中国をはじめとする、ARRN 加盟国内の河川再生関連ネットワークと人的交流の橋渡しの支援を受けられます。

■ 会員登録方法

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.a-rr.net/jp/member/registration.html>



2020年1月31日時点の個人会員の所属構成
 (個人会員数：800名、団体会員数：60団体)
 ※1月の新規入会数：個人会員0、団体会員0

JRRN 会員特典一覧表 (団体会員・個人会員)

| 提供サービス | JRRN 個人会員 | JRRN 団体会員 | 非会員 (一般) |
|--|-----------|-----------|----------|
| 1 ホームページへのアクセス及び記事へのコメント入力 ※1 | ◎ | ◎ | ◎ |
| 2 ホームページ「イベント情報」欄でのイベント掲載 ※2 | ◎ | ◎ | ◎ |
| 3 ニュースメール(週1回)の配信 ※3 | ◎ | ◎ | × |
| 4 Newsletter(毎月)及び年次報告書(年1回)等の発刊案内メールの配信 ※3 | ◎ | ◎ | × |
| 5 JRRN/ARRN主催行事の優先案内・優先参加 ※4 | ◎ | ◎ | × |
| 6 国内外の河川再生関連情報・技術収集や専門家・組織紹介の支援 ※5 | ◎ | ◎ | × |
| 7 ホームページ「会員からのお知らせ」内及びニュースメール「会員からのご案内」欄で団体が関わる行事・出版物・製品等の案内の掲載 ※6 | △※7 | ◎ | × |
| 8 ホームページ「会員登録状況」「国内団体」内及び年次報告書内で団体名の掲載 | × | ◎ | × |
| 9 ARRN活動に関連する英語ニュース(ARRN Newsletter等)の不定期配信 ※8 | × | ◎ | × |
| 10 JRRN及びARRNが保有する国内外専門家・団体等との連携等の支援 ※9 | × | ◎ | × |

会員特典詳細はウェブサイト参照：<http://www.a-rr.net/jp/member/benefit.html>

【お気軽にお問い合わせください】

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF 茅場町ビル7階 (公財) リバーフロント研究所 内
 Tel:03-6228-3865 Fax:03-3523-0640 E-mail: info@a-rr.net
 URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>